

徳島未来図

▷中◁

徳島県が医療観光を二
ターツアーで招いた中国
まいった検診は、予定の午
・上海市の糖尿病患者ら
後3時40分より30分以上
10人は、2日目に徳島市
早く終わった。

この結果、午前8時に始
賛した。中国にも最新の
機器を備えた医療機関は
あるものの、検診を受け
るために何カ月も待たさ
るために、医師の対応が悪
かったり、医師の対応が悪
かったりする一方で「徳
島大学病院のサービスは
素晴らしいです」。

検査技師が日本語で声を
掛けると、付き添う通訳
が即座に中国語に訳す。
「大丈夫です」。受診者
の答えもすぐに訳され、
検診は円滑に進んだ。

周到な準備奏功

今回初めて外国人旅行
者の検診を受け入れた徳
島大学病院。言葉の違い
から起きる混乱を避ける
ため、医療スタッフと通
訳を務める中国人留学生
らが約1カ月前から受診
者の誘導経路などについ
て打ち合わせを重ねた。

糖尿病検診

訳の働きが重要だった。ただ、徳島大学病院が

準備の成果が出て検診を
通常1日に対応できる検
診は3人程度。今回は混
雑に返る。日本人向けの
検診を改良した検診メニ
ューについても「中国人
に使えることが確認でき
た」と自信を深める。

検診を終えた糖尿病患
者らは「医師や職員の対
応が丁寧で、施設や機器
他の診療に支障が出か
ない。民間医療機関など

鍵握る独自のサービス

民間や中国との連携重要

第4部 医療観光の課題

通訳を介して説明を受けながら採血を受けるモニター参加者④。
医療サービスに対する評価が高かった。3月21日、徳島大学病院



でも受け入れ態勢を整
えたい」と主張す
る。

継続的な指導も

研究者を招いた国際フォー
ラムも開く計画だ。
既存の検診で旅行客を
左右しよう。

こうした指摘に対し、
多くの糖尿病患者を治療
している川島病院（徳島
市）の島健二院長は「生活習慣などの指導を
も北京や上海など大都市
に最先端の医療機関はあ
る。松本センター長は
「川島病院をはじめ、糖
尿病の高度な検診設備を
備え、専門医がいる医療
機関は県内にも数施設あ
る」と説明。また県や大
学から具体的な協力依頼
はないが「今後、要請が
あれば対応したい」と前
月には、中国の糖尿病研
究者も招いた国際フォー
ラムも開く計画だ。
既存の検診で旅行客を
左右しよう。

（政治部・佐藤亮）

だ。

そもそも医療観光は、
産学官で糖尿病関連の新
産業を創出する事業の一
環。事業から生まれた新
たな治療法や治療薬を基
に独自の医療を提供する
計画だが、事業は昨年始
まったばかりで具体的な
開発成果はない。

県は「国内外の医療機
関との競争に勝ち抜いた
めにも事業で差別化を図
りたい」と意気込むが、
成果をどれだけ生み出せ
るかが医療観光の行方を
左右しよう。

今後、民間医療機関も
巻き込んで専門性の高い
検診や治療の裾野を広げ
ながら、現在も評価が高
い医療サービスの質をさ
らに高めていけるかどう
か。徳島大学病院や県医
師会の取り組みが、糖尿
病予防や治療に対する県
民意識を高める上でも重
要になる。